

多摩市・多摩市教育委員会
地域連携展示

PARTHENON
TAMA

多摩の力や場の博物誌

かつて多摩丘陵の人々の暮らしを守り
多様な生き物を育んだ
ススキの草原“力や場”があった——

入場無料

2020.10.25 (日) - 12.20 (日) 10:00 ~ 16:00

【会場】旧多摩聖蹟記念館 月曜日、水曜日休館※その他臨時休館あり
東京都多摩市連光寺 5-1-1 TEL. 042-337-0900

【共催】多摩市、多摩市教育委員会 【企画】パルテノン多摩共同事業体 【協力】東京都立大学牧野標本館

【お問合せ】パルテノン多摩共同事業体 学芸担当 東京都多摩市鶴牧 1-24-1-501 TEL. 042-375-1414

入場無料

多摩のカヤ場の博物誌

現在の多摩丘陵ではほとんど見かけませんが、かつては各所に「カヤ場」と呼ばれたススキ草原がありました。土地を放置すると森になる多摩丘陵において、ススキ草原を維持するには定期的な草刈りが必要で、手間がかかります。そのかわりにカヤ場は屋根材や家畜のえさなどの供給源として人々の暮らしを支え、また草原を好む生物を育ててきました。

今回の展示ではカヤ場と人々の暮らしの関係や、カヤ場の生物多様性などをご紹介します。

【展示内容】 ※内容は変更される可能性があります

1. カヤ場ってどんなところ

かつて多摩丘陵の各所にあったカヤ場はどのような場所にあったのか、地域の人にとってどのような存在だったのか、村絵図などをもとに読み解きます。

2. カヤで屋根をつくる

古くからカヤは屋根の材料として重要でした。そのためにカヤ場があると言ってもいいでしょう。ここでは多摩でカヤが屋根になる過程など、茅葺き屋根に関するさまざまな事をご紹介します。

3. 暮らしを支えるカヤ

カヤ場のカヤは、屋根材以外にも農業で使う家畜のえさや田畑の肥料の材料として利用されていました。

4. カヤ場の多様な生き物

カヤ場には草原を好む多種多様な生き物がくらしていました。また、カヤ場の多様な生き物は、秋の七草など文化にも影響を与えました。しかしカヤ場にいた生き物の多くは絶滅の危機にひんしています。



かつてのカヤ場（多摩市域か） 撮影年不明／横倉愛氏撮影



開発前の茅葺き民家（多摩市域か） 撮影年不明／横倉愛氏撮影

2020. 10.25 (日) - 12.20 (日) 10:00 ~ 16:00

【会場】旧多摩聖蹟記念館 月曜日および水曜日休館※その他臨時休館あり

【共催】多摩市、多摩市教育委員会 【企画】パルテノン多摩共同事業体 【協力】東京都立大学牧野標本館

【会場についてのお問い合わせ】

旧多摩聖蹟記念館……………〒206-0021 東京都多摩市連光寺 5-1-1 TEL. 042-337-0900

【展示内容についてのお問合せ】

パルテノン多摩共同事業体……………〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 1-24-1-501 TEL. 042-375-1414

【HP】 <https://www.parthenon.or.jp/> 【Twitter】@par_tama_museum 【Facebook】 <https://www.facebook.com/25thparthenon>

